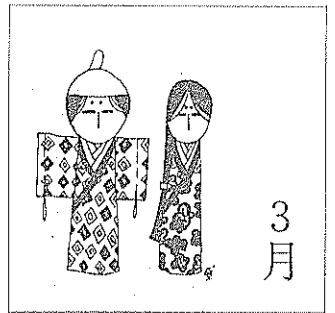


春とはいえ、朝夕はまだ寒さが残っていて、足の爪先の冷たさが電気こたつを恋しがってなかなか抜け出せません。朝晩はまだ、ちょっとヒザを入れる場所がほしいようです。

7日は消防記念日。「春の全国火災予防運動」はこの日は皆さんで二週間行われます。ちょっと暖くなると気もゆるみ、少しばかりの火は気にならなくなるせいでしょか。毎年3月がいちばん火災の多い月ようです。

この4月、新入学するお子さんのいるご家庭では、通学服や学用品のことで、あれこれ心づかいをしていることでしょう。トメ金やチャックのカギなど、おとなが見て便利だと思っても、子どもさ



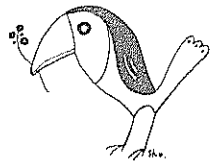
んにはむつかしく扱にくいものがあります。学用品は、なるべく取扱いの簡単なものを選んであげてください。

これまで、お母さんやおねえさんに手伝ってもらっていた衣類の着脱を、ひとりですることができるようにしておきましょう。上着のボタンを一ケタまちがえたからといって、すぐに手を貸さないで、まちがえたからボタンが余って、アナがひとつ足りなくなったことを教えてもう一べんかけ直させるように仕向けてください。

桜がそろそろほみをもちはじめます。春の風はさわやかで気持ちのよいものですが、時にピューツと土ほこりの突風に変わります。外出のときは、スカーフを一枚そつと持って出るようにしてください。

連絡員さん ありがとう

この広報は304人の連絡員さんのご協力でみなさんの手もとにわたっています。連絡員さんの交替は1月と4月に多いようですがこれからもよろしくお願いします。

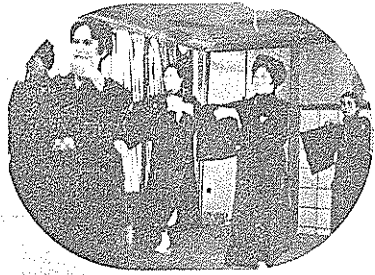


わか町を 生かす

二月十三日、長岡地区婦人会が清風園を訪問し、楽しい歌や踊りを披露しました。

。こんには、三波春子です。オカアチャン浪曲師の登場に清風園のみなさんは大喜び。これらの楽しいものは、婦人会のみなさんがタバコやヒーマン作りのあい間に練習したものだ。

長岡地区婦人会長は園林政衛さん。会員は五百余人。清風園慰問はこれで三回目。ほかに希望の家で奉仕作業もしています。



住民による部落づくり

部落のしおりや自警団も

稲吉のコミュニティ

稲吉部落——市役所の南、大篠小学校を周囲から包んだ状態。この部落はある。世帯数四百三十三戸、人口二千二百三十七人（昭和四十九年一月末現在、住民登録人口）。十年前の百三十三戸、三百九十一人に比べると実に四倍。住宅がみっちり建ち込み、住民の異動も激しいものがある。

も薄く、住民意識は都会型といったところか。こんな状態をうれえる人も多い。恒内武義さん（三三）もその一人。始めて地区連絡員をやることになったが、市の文書広報など連絡不十分もあつた。なにしろ借家が四十世帯で新規加入の人も多く、部落会費は何に使われているか、公民館長は誰れで、公民館はどこにあるのか、活動はどんなことをしているのかなど全くわからないことが多かった。

昭和四十六年、自治省は全国五十三カ所にモデル・コミュニティを指定。バラ色の近隣社会をすすめた。しかし「コミュニティは今までの行政という概念で推し測るのは危険だ。行政のためのコミュニティをつくるには、かつて住民を監視し、挙国一致、侵略戦争遂行のためにつくられた「町内会部落会」の現代版になる」と反対の声が多かった。

コミュニティとは、市民が民主主義のルールを尊重して連帯し、お互いに手をたすさえて自主自律の近隣社会を創造しようというもの。ここでは国や地方自治体の押しつけではなく、住民の自主的な発想でいろいろのプランがたてられている。

いに住みよい部落にしようと呼びかけている。市外からの転入者はもちろんのこと、貴重なパンフレット。住民にもなかなか評判がよい。「こく周辺ののりだけしかおつき合いがなくなつた。月百円の会費が、こんなに広範囲な活動に使われていると思えば安いもの。できれば一冊の本にまとめれば」と欲のほどもでてくる。「全戸に一枚配付したいのですが、これだけでも一枚五十円はかかります。今のところしおりを各班に回覧。月番の人が保管して順次まわすことにしているが、ぜひそつしたい」と恒内さんも意欲十分。

高石文一公民館長では「戦前の隣り組のようなものは廃止されたが、やはり住民の自治組織的なものは、必要でどこでも部落会、町内会はあり活動している。稲吉部落は市の中心部として発展していく途上であり、それなりに住民として一致して協力しなければならぬ。みんなの協力で明るく住みよい部落をつくっていききたい。そのためにも部落会に加入されているいろいろの活動に参加してほしいものだと呼びかけている。

部落会の会費月百円。四十七年度の決算では四十八万円が運営活動費にあてられている。ガリ版ずりの公民館だよりの発行もひんぱんで手にとるように部落の動きがわかるのが強味。浜改田の地洩網引き、敬老会の温泉行き、ママさんバレー、地区運動会などレクリエーションや体力づくりはもちろん、長くつづいている自警団（團長、武内孝夫）はユニークなもの。住宅密集地帯だけに関心

も高く、火災、水害の予防、防犯にも意気込みがわがう。年四回の定期的な訓練をもち、先ごろの安岡製綿工場火災では地元自警団としてその活動は高く評価されている。また、葬儀関係の決まり。西組では葬儀組合がある。葬儀発生の家庭は組合に一万円を提出。当日は組合員は各戸二百円を持って出役のこと。やむをえない場合は欠席の理由をつけて五百円を出すことなど規約もしっかりしている。こうした部落をささえているものは、やはり地域の状況をどのように把握するかから始まりそう。

。ここでは「家族台帳」というものがある。家族の氏名、年齢、位置などを正確につかんで、検診や予防注射、広報のお知らせ、部落の連絡などくまなく知らそう、そして部落の防犯、防犯や交通安全、公民館活動など積極的な活動をすすめるがよりよい部落づくりにあたろうと意欲満々の部落である。

市民が主人公の市政を市政の大きな柱にしているとき、住民の住民による住民のための地域づくりは大きく胎動をみせている。カシの木の下で民主主義の息吹は、市のすみずみまで波紋をよぶことであろう。

きょうの話題・あすの話題

きょうの話題・あすの話題